



「内達一号」改悪阻止のために

真の狙いは要員合理化

国鉄当局は、一月二十一日、内達一号の「改正」と称して、乗務員の勤務全般に関わる改悪案を提示してきた。この提案内容は、現行の勤務時間の換算制を廃止し、基本的に生時間で計算することとしており、この間出されてきた組合側からの改善要求に込められているように見えるが、しかし、国鉄当局の真の狙いは要員合理化である。すなわち、国鉄当局は、この提案をもって、三五万人体制攻撃の中で民託化できない部分―乗務員に対して、第二臨調の主張する「私鉄並み」以上の労働条件を強要せんとしているのである。『本提案の主な問題点については、提案直後に、『日刊』九五七号（2月1日付）で明らかにしてきたところであるが、今後、本紙上で何回かにわたり、より詳細に検討を加えてゆくこととします。』

乗務員の労働条件を根底から揺がす攻撃

内達一号は、労働基準法に定められた一日の労働時間（八時間）の枠内で、いかに乗務員を有効に働かせるかという国鉄当局の意図に基づき、一九五〇年に制定された。

しかし、動力の近代化や輸送体系の変化に応じ、動力車乗務員の勤務に関する諸協定は手直しを余儀なくされ、当局の当初の意図は空同化し、同時に、動力車乗務員の側から見ても換算時間制は多くの問題点をもっており、改善要求が出されてきた経過がある。

このように中で、当局は相当時間をかけて検討し、動力・国労中央の右傾化などの情勢をも見極め、満を持して提案してきたものである。

従って、その内容はすさまじいものがある事を見とらなければならない。

第一の問題点は、

一九七四年十一月の動力車乗務員数（E・C・D）の協定が締結され、ショートランによる特急列車の二人乗務を大中に削減したが、そのとき締結された一人乗務による一継続乗務キロ制限を改悪し、一人乗務によるロングランを企図していることである。

第二の問題点は、

乗務員の一基準日当りの乗務キロを設定し、乗務員にノルマを課す形で、労使協約の下限を決めることを通して、この間の労使の力関係によって地方でかちとってきた労働条件を奪い取ろうとしていることである。

このことは、地方段階における判断基準（地方局の特性）を一切認めず、中央集権の強化（労組中央指導部のとり込み）を図ることを通して、乗務員の労働条件をがんにがらめにし、ついに、乗務員としての存在を示している。

動労「本部」の裏切り糾弾！

であるが故に、当局は動労「本部」の「働き度」を高める「運動を賛美し、全面協力体制をしいて、闘う部分への攻撃を強めてくることは必至である。われわれは、動労「本部」の裏切りを断固粉碎し、内達一号改悪を阻止してゆかなければならぬ。

全乗務員にとって、この内達一号改悪は死活の問題であり、同時に、動力車職場の全労働者にとっても死活の問題なのである。

●動労「本部」革マル反動分子の裏切り弾劾！

●全乗務員は今こそ立ち上ろう！

●動労大改革へ、今こそ決起しよう！

82年、新春囲碁・将棋大会 開催される

二月十四日、本部サークル協主催で、新春囲碁・将棋大会が動力車会館で開催され、各支部より二十三名の腕自慢が参加しました。

試合に先立ち、篠塚連盟会長から、今後の連盟と部会制との内容の説明があり、「囲碁・将棋連盟は今後も一体として行動を共にするようにしたい。本日の大会が各支部間の交流に役立ってほしい。」とのあいさつを受け、試合に入っていました。

大会は、熱戦の内に時間の経過も忘れ、十六時まで打ち継がれ、終局しました。表彰式の後、各支部の交流会に移り、なごやかなうちに局後の検討、過去の大会の成果等々、時間の限りの討論に花が咲き、十七時大盛況のうちを終了しました。

大会成績

囲碁の部

優勝・大河原修三（勝浦）
準優勝・斉藤一郎（〃）
第三位・宇田川一夫（幕張）
敢闘賞・加藤文夫（館山）

将棋の部

優勝・小幡重三（蘇我）
準優勝・草壁秀喜（勝浦）
第三位・飯田績（館山）
敢闘賞・岩瀬孝一（千転）

日刊 動労千葉

82. 2. 19

No. 972

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五〇六（公衆）四三二二（七二〇七）